

# 2月東京物価3.3%上昇

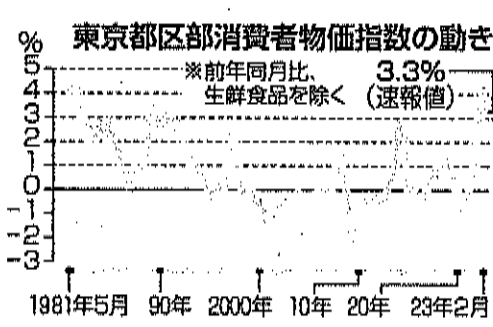
## 13カ月ぶり伸び縮小

総務省が3日発表した2月の東京都区部の生鮮食品を除く消費者物価指数(中旬速報値、2020年=100)は前年同月比3.3%上昇の103.7となり、13カ月ぶりに伸びが縮小した。2月から政府による電気・都市ガス料金抑制策の効果が反映され、前月の4.3%から下がった。

## 電気代抑制を反映

東京都区部の指数は全国の先行指標とされる。24日発表される全国指数の伸び率も縮小する可能性が高い。ただ食料品の値上げが

続いており、家計の負担感が緩和されるかどうかは予断を許さない。  
エネルギーは5.3%上昇で、前月の26.0%から



大幅に縮小した。このうち電気代は1.7%低下した。電気代がマイナスとなるのは1年7カ月ぶり。都市ガス代は前月の39.7%

### 2月の主な品目の上昇率

食用油	32.0%
ハンバーガー(外食)	25.1%
炭酸飲料	15.7%
調理パン	14.6%
都市ガス代	20.4%
ガソリン	▲2.2%
電気代	▲1.7%

※総務省調べ、前年同月比、▲はマイナス

から上昇率を縮小したものの、20.4%と引き続き高水準だった。政府の電気・都市ガス料金の抑制策は2月請求分から適用され、指数の上昇率を1割程度引き下げたとみられる。抑制策がなければ、

単純計算で前月の4.3%に並ぶ高い上昇率になった。大手電力は家庭向け料金を値上げする予定で、春以降は抑制策の効果が相殺される可能性が高い。

一方、値動きの大きい生鮮食品を除く食料の上昇率は、前年同月比7.8%と46年6カ月ぶりの高い伸び率だった。前月の7.4%から拡大した。内訳は、乳卵類が11.2%、外食が7.8%、飲料が7.8%、油脂・調味料が11.3%それぞれ上がり、値上げの影響が鮮明だった。携帯電話機などを含む通信も7.3%上昇した。